



# 少子高齢化を嘆くばかりやなく

**雪**の季節になりました。

日本海側は大変やと思います。毎年。

地球温暖化で、雪も多少減ったのでしようけど、豪雪で車が往生して立ち止まってる様子は、テレビでもおなじみです。

冬の日本海には、演歌が、よう似合います。

「哀しみ本線日本海」、「能登半島」、「津軽海峡冬景色」、「海雪」……。雪降る灰色の空と海は旅情をそそります。住んでる方は大変やろうけどね。まあ勘弁してください。旅人の勝手な感傷と思うて。

そんな日本海で、今、活気づいている島があります。隠岐です。隠岐いうと、関西では後鳥羽天皇や後醍醐天皇さんといった高貴な方たちが流されたところのイメージがあります。

隠岐は「遠流の地」という言葉があるから、京から遠く見えたでしょうなあ。まあ、この時代の関東は、もつと遠かって、草深いところやと思うてましたからなあ。都の人は。

「遠流」ばかりでなく、「中流」、「近流」という言葉もあったそうです。都からどのくらい遠いか、やんごとなき方たちは、失脚したとき、どこに流されるかが、その後の人生をきめたのでしょうか。

さて、不便なイメージを持つ隠岐諸島ですけど、全国的な人

口減、過疎の影響は、ここも例外やありません。

一時は、人口がどんどん減ったようです。

そやけど、最近若者のイターンが興つてると聞きます。

あつ、イターン言うのは、よういわれたイターンと違いますよ。

イターンは生まれ育った地から出て、また戻ってくることで、それに対してイターンは、例えば大阪で生まれ育った僕が、縁もゆかりもない隠岐諸島に移って仕事する、暮らす、というものです。

ついでにいうなら、イターンは地方から出て、また地方に戻るが、住んでいたところではなく、出身県の県庁所在地などに帰る、というものです。

都会から地方へ移住するのも、いろいろあるんですなあ。

隠岐の島々に来る人々は、さつきも書いたように、この中のイターンが多いようです。

**なんでわざわざ遠流と呼ばれた島に人は来るのでしょうか**

では、なんでわざわざ、かつて遠流と呼ばれた島に人は来るのでしょうか。

今は、昔と違って、当然、船便に加えて飛行機もありますので、



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)

大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪府立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事も。



そんなに遠いとは思えないでしょうが、それでも大阪からは、新幹線、特急、バス、高速船とうまく乗り継いで約五時間はかかります。

地図見るとわかりますが、隠岐諸島には四つの島があります。その一つ中ノ島という島に海士町あまちょうがあります。

この町が、よく地域おこしの成功事例として紹介されているんです。

当然、地域が活性化するのは、一つだけうまくいってもあきません。

総合的な戦略が必要です。

海士町では「海士町自立促進プラン」いうものをこさえて、まず町長自ら給与カットを行いました。

職員も、それにならうとともに、人数を減らす。町議会議員も給与カットと定数カットを行なうなど、文字通り、血を流しての改革です。

**中小企業関係者としては  
見本みたいなお手伝いの仕方だと思います**

そやけど、経費や人員の削減だけでは、地域おこしになりません。

産業を育てて、雇用の場、交流の場を作らねばなりません。そこで技術を持つ中小企業の出番です。

この町では、(株)アビーという千葉県にある会社が、精密凍結技術CASという技術を駆使して、地域のお手伝いを成し遂げたんです。

(撮影：斎藤潤)



●海士町では朝獲れた魚を行商に来ることもある

海士町では、日本海の荒海で育った魚介類が、ぎょうさん揚がります。そやけど船で運んだら、せつかくの朝獲りも、セリには間に合わず、翌日に回され、鮮度もさがり、値も安くなります。

それを「磁場エネルギー」で細胞を振動させることで、細胞組織を壊すことなく凍結させる

ことができる画期的なシステム」(「ないものはない」離島からの挑戦)「隠岐国・海士町より」を導入して、首都圏のみならず、中国やアメリカまで輸出を拡大しているといいます。いやあ、すごいですなあ。

地元住民だけでなく、移住者、そして最新技術を使つての地域おこし。中小企業関係者としては、見本みたいなお手伝いの仕方だと思います。

「若者・よそ者・馬鹿者がいれば地域は動く……動けば必ず変わる」。「総人口では増えないが、活力人口が増えたことによつて人口構成のバランスが良くなった」。前述の海士町の報告書は、こうも書いています。少子高齢化を嘆くばかりやなく、こんな素晴らしい例もあること覚えときましようや。

